

大阪府立泉州救命救急センター卒後研修プログラム

平成 18 年 9 月 27 日改定

本研修プログラムは、大阪府立泉州救命救急センターにおける卒後研修制度下での研修内容をまとめたものである。

1. プログラムの名称

大阪府立泉州救命救急センター卒後研修プログラム

2. 卒後研修医の定義

本プログラムにおいては、卒後 2 年目までのスーパーローテーターを初期研修医、スタッフ医師および初期研修医を除くすべての医師を「卒後研修医」と定義する。

3. 卒後研修の目標

卒後研修の目標は以下の 6 点である。

- (1) 外傷患者、心肺機能停止、緊急を要する病態や疾病に対して適切な初期診療を行ない、かつ、適切な根治的治療 (definitive therapy) 選択の判断ができる。
- (2) 重症患者に対する集中治療に必要な知識と技術を習得する。
- (3) 災害訓練などを通し災害医療の基礎を身につける。
- (4) 救急医療に関する調査、研究に積極的に参加する。
- (5) 学会等において適切なプレゼンテーションができる。
- (6) 日本救急医学会および日本外科学会専門医の取得 (希望者)。

4. 卒後研修内容

卒後研修では、初期研修、後期研修とに分け、救急医として日々の診療の中で習得すべき診療手技を研修事項 (別紙) とし、研修期間に習得できるよう目指す。

また、協力病院である市立泉佐野病院において上部内視鏡検査、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査等の研修を行うことができる (後期研修医の希望者)。

5. 卒後研修に当たっての注意事項

研修医は指導医による指導の基、日々の臨床業務を行うことを基本とする。診療方針決定に関しては指導医と十分なディスカッションをおこなった後に診療行為を行うこと。個人での判断に不安がある場合は、決して自己判断をせず、上級医に相談すること。これまでに経験のない手技に関しては、必ず上級医の指導の下に手技を行うこと。

具体的な日々の業務内容は以下の通りとする。

- (1) 初期研修医および後期研修医は原則的に D 直としての業務を行うが、B 直医とともに主治医として患者の診療に責任をもって当たる。
- (2) B 直医師が不在の場合、担当 A 直医師と相談の上、診療に当たる。
- (3) 指導医のもと、夕方の申し送りおよび火曜日のカンファレンスのプレゼンテーションを行う。
- (4) プレゼンテーションは患者状態の把握および検査治療方針の判断が試される場でもあるので、事前に十分な用意を行うこと。
- (5) 研修中の習熟度およびスキルを総合的に評価して適性と判断された場合には、B 直医師としての業務を担当できる。この場合、D 直医師が直接の指導医となり、これを A 直医

が補佐するものとする。

尚、各医師の業務内容の概略は以下の通りである。

A 直:管理日直・当直、ICU・病棟患者の管理責任当直

B 直:救急搬送患者主治医(D 直医とともに患者診療に当たる)

C 直:業務補助

D 直:救急搬送患者担当医(B 直医とともに患者診療に当たる)

6. 研修評価

卒後研修医は定期的に(原則初期研修医は3ヶ月、後期研修医は6ヶ月毎)研修内容を複数の指導医より評価を受けるものとする。評価内容は、評価表(別紙)およびポストテストによる評価を行う。

7. 具体的運用指針

具体的な運用指針を以下にあげる。

患者の受け持ちは、原則B直とD直の2名で受け持つこととし、B直医を「主治医」、D直医を「担当医」と呼ぶことにする。

原則的には研修医への指導的立場からB直医を担当する医師を「指導医」とし、「指導医」は「卒後研修医」の指導医としての役割を果たす。

「卒後研修医」は担当患者の診療を担当医として責任を持って行い、「指導医」は「卒後研修医」の診療に責任を持つものとする。また、これを担当のA直医がスーパーバイザー的立場から指導補佐する。

「卒後研修医」は、患者の診療、日々のプレゼンテーションなど臨床における中心的業務を指導医のもの行うものとする。また、指導医が不在の際は、担当A直医が指導医を代行する。

「卒後研修医」がB直医を担当する場合には、主治医として患者の臨床、プレゼンテーション、カルテ整理(サマリー作成)、対外交渉等、責任を持って行う。この際、D直医は「指導医」が行うことを原則とし、「後期研修医」の指導を行うものとする。また、D直医が「指導医」でない場合は、担当のA直医が「後期研修医」の指導を行うものとする。

8 卒後研修内容の評価とフィードバック

卒後研修内容の評価は、評価表(別紙)およびポストテストで行うものとする。複数の指導医によりあらゆる角度から評価を受け、その内容を総合的に判定し、卒後研修医へとフィードバックする。